

平成30年度第3回高梁市総合教育会議 会議録

1. 招 集 平成31年2月22日 午後2時30分
2. 開 会 平成31年2月22日 午後2時30分
3. 閉 会 平成31年2月22日 午後4時10分
4. 会議の場所 高梁市役所 3階大会議室2・3
5. 出席、欠席した構成員の氏名

氏 名	出欠の別
近 藤 隆 則	出 席
小 田 幸 伸	出 席
川 上 は る 江	出 席
吉 川 昭	出 席
渡 邊 あ り さ	出 席
藤 井 祥 生	出 席

6. 会議に出席した者の職氏名

職 名	氏 名	備 考
政 策 監	前 野 洋 行	
教 育 次 長	大 場 基 成	
健 康 福 祉 部 長	宮 本 健 二	
参 与	田 村 啓 介	
秘 書 広 報 課 長	川 内 野 徳 夫	
こ ど も 未 来 課 長	赤 木 憲 章	
教 育 総 務 課 長	大 福 克 志	
学 校 教 育 課 長	石 原 洋 重	
社 会 教 育 課 長	渡 辺 丈 夫	
ス ポ ー ツ 振 興 課 長	川 上 啓 二	
文 化 セ ン タ ー 所 長 代 理	原 田 貴 子	
教 育 総 務 課 総 務 係 長	村 上 靖 恵	

7. 協議題

- (1) 園における特別支援教育の充実～就学前教育を考える会 中間報告～について
- (2) 部活動のあり方を考える会 中間報告について
- (3) 学力向上研究会（ICT活用）の成果について
- (4) 学区の見直しについて
- (5) 幼稚園、保育園、認定こども園の無償化について

8. 議事の概要

- 1 開会
- 2 あいさつ（市長）

今回は、今後の課題となるいくつかの協議題を提出させていただいており、直近の課題としては幼児教育の無償化があるが、これは単純に喜ばしい話ではない。本来、国が全額費用負担すべきもので、全国市長会でも国へ要請してきたが、最終的に市町村が4分の1を費用負担することとなった。高梁市では、現在、給食の主食費、副食費を含めた保育料としているが、国は主食費、副食費ともに減額対象とはしない方針であるので、今後、保護者に実費負担をお願いしなければならず、負担増となる方が出てくることも想定される。市町村が負担する財源も交付税措置される見込みとはなかったが、本来、交付税は地方の財源である。さまざまな問題を抱えたままで、国が見切り発車する状態となっている。

7月豪雨を受けて市の財政は危機的状態となり、新年度予算が組めるのかという状況にあった。その中にあっても、福祉、医療、教育予算については確保すると早い段階で申し上げており、何とか対応できたと思っている。ただし、修繕関係については、時期を遅らせてもらわざるを得ない状況である。今後数年間は、限られた財源をいかに効果的、効率的に教育行政に反映させていくか知恵を絞らなければならない。教育委員の皆さんにもお知恵を貸していただきたい。

この度のような災害が起こったことを子どもたちがどう感じているのか、少々気になっているところである。復旧・復興に向けて、高梁の町でみんなが頑張っている姿を見て、子どもたちも自ら考え、行動に移してくれるような形になればよいと思っている。

3 協議題

学校教育課長	別紙資料により「(1) 園における特別支援教育の充実～就学前教育を考える会 中間報告～について」を説明
市長	2年前、幼稚園・こども園・保育園の教育支援を担当するセクションとして就学前指導係を設置したが、その中で特別支援の必要な子どもたちに対して何ができるかとして、今取り組みを進めているところである。
川上教育委員	特別支援教育においては、最初の見立てが大切である。見立ての違いで支援の仕方も変わり、それがプラスになったりマイナスになったり影響が大きい。県総合教育センターがアセスメントシートの活用、普及を呼び掛けており、使用している人からは大変便利だと聞いている。園に専門性を有する職員が少ないということであったが、このアセスメントシートの活用方法を研修し導入すれば、もっと効率的に教育支援計画の作成もでき、担任の主観によらない科学的な見立ても

学校教育課長	<p>可能になるのではないかと思うが、その辺りをどのように考えているのか聞かせてほしい。小学校等でのアセスメントシートの普及率も教えてほしい。</p> <p>アセスメントシートについては貴重なご意見をいただいたので、次回の就学前教育を考える会で、活用についての提案をしていきたい。小・中学校では、サポートキャラバンで特別支援の指導を受けている学校はアセスメントシートを活用しており、県立支援学校の専門指導員派遣事業を利用している学校は別の様式を使っている。関係機関との連携で、どちらの様式が使いやすいかということは研究の必要があるかと思う。具体的な普及率は集計していない。</p>
吉川教育委員	<p>特別支援教育推進センター設置を検討しているとのことであったが、現在の就学前指導係がセンター機能を兼ねることとなるのか。また、作成された個別の教育支援計画に対しては、教育委員会はどのように指導しているのか。</p>
学校教育課長	<p>就学前指導係へのセンター設置になると思われる。私立園も含めて、窓口を一本化することで、迅速で的確な相談対応をしていきたいと考えている。個別の教育支援計画は、支援学級在籍の子どもは100%、通常学級でも支援の必要がある子どもについても作成をしている。計画訪問の際に確認し、子ども本人や保護者の将来の願いを踏まえ、長期的にどうしていくのかという内容については重点的に指導している。家庭訪問や夏休みの個人懇談を経て完成した計画を8月末に提出を求めている。</p>
市長 学校教育課長	<p>就学前の特別支援学級の設置が困難というのは、現場としての意見か。</p> <p>特別支援学級を担任する場合に、現在は専門性を有する職員がいないという状況である。例えば、特別支援学校を定年退職した方に再雇用として入ってもらうといった方法も可能かとも考えられるが、これまでの経緯やインクルーシブ教育ということも大きく、十分な検討が必要と考える。</p>
教育長	<p>今は設置の必要がないかもしれないが、今後も見据えて、次回の就学前教育を考える会でも、もう少し検討いただいてもよいのではないかと考えている。</p>
市長	<p>支援を必要とする子どもが増えている中、特別支援学級の設置といったことも考える必要があると思っているが、国の考えは、就学前は全て普通学級の中で育てるという流れであるので、今のところ国からの支援策はない。</p>
教育長	<p>幼稚園や保育園というのは、もともと個に応じた養育をしているのだから特別支援教育は必要ないというのが国の考え方であるが、必要と考える。将来自立していくために特別支援の欠かせない訓練メニューがあるが、これは小・中学生になってからよりも、就学前に取り組む方が格段の効果がある。これから研修等で専門性を高めていけば、園でも担任ができる職員も増えてくるであろうし、地域でそうした力を蓄えておく必要もあると思う。</p>
学校教育課長	<p>別紙資料により「(2) 部活動のあり方考える会 中間報告について」を説明</p>
市長	<p>先日、第1回会議を開催したが、課題点は見えてきているので、その課題に対して意見を出し合い、高梁市としての方針をまとめようと考えている。</p>
教育長	<p>第1回会議で委員の皆さんから、子どもたちの意識や意向を知る必要があるとのご意見があり、現在、アンケート調査を行っているところである。次回会議からは、その結果を踏まえ、具体的に内容を検討していくこととしている。運動部</p>

川上教育委員	<p>活動に関する内容については、スポーツ推進計画にも反映させていく。</p> <p>スポーツ庁の運動部活動ガイドラインや体力テストの結果報告を確認してきたが、全国的には小学5年生も中学2年生も、男女ともに前年度に比べ運動能力が向上傾向にある中で、高梁市の子どもたちは著しく低下している状況があることは、高梁市のガイドラインを策定する上で密接に関わってくると思っている。また、国のガイドラインでは、部活動の一日当たりの活動時間は平日2時間、休日3時間、週2日の休養日が示されているが、その指針を守りながらも、運動能力向上のために部活動はどうあるべきか方向性を定めていくことになるのか。</p>
学校教育課長	<p>休養日、活動時間については、岡山県も国と同様の指針を示しており、高梁市でも30年9月から、平日1日と土・日曜日のいずれか1日の休養日を実行している。活動時間についても平日2時間、休日3時間ということで、短い時間の中で効率的で効果的な練習を行うよう進めている。運動能力については、29年度は中学校で男子が県下ワースト1位、女子がワースト3位など著しい低下が見られたが、今年度はいくらか上昇傾向にある。部活動に限らず、体育の授業や部活動の準備運動も活用しての運動能力の改善プランを出してもらっているので、これに基づき体力向上を図っていききたい。</p>
教育長	<p>中学校では部活動によって生徒の体力向上が図られていると考え、それ以外の取り組みをあまりしていないところも多いが、それは違うと思う。例えば、全校で駅伝に取り組んでいる有漢中学校は、体力テストでもよい結果が出ている。体育の授業もレクリエーション的な内容が増えているが、心拍数が2倍に上がるようなハードな授業で体を鍛えるということも必要である。体力向上については、部活動だけに頼らない取り組みという方向で進めているところである。</p>
渡邊教育委員	<p>10代のころの感性というのは、大人になったときの土台となるものである。文化部活動を通じて、中学生に美術や音楽等に触れて学んでもらうことも大切なことだと思うので、運動部活動だけに限らず十分に検討いただきたい。</p>
市長	<p>現在、子どものアンケート調査を実施中ということで、その結果を踏まえて方向性も出せると思う。また、個々の学校が単独で部活動をすることが困難になってきている状況もあるので、今ここで、部活動のあり方を考えるということは重要なところである。</p>
教育長	<p>文化部活動は、部活動に限ってしまうと成り立たないような状況もあるので、地域と連携した文化活動として取り組む必要もあると考えている。中学生が地域に出て行って、地域の琴の会に入ったり、合唱団に入ったりして、文化に触れ学ぶ方法もあり得ると思っている。</p>
学校教育課長	<p>別紙資料により「(3) 学力向上研究会(ICT活用)の成果について」を説明</p>
市長	<p>成羽中学校、富家小学校を研究指定校に、松原小学校を協力校として、ICTを活用した学力向上研究に取り組んできたものである。</p>
渡邊教育委員	<p>自分の子どもがプログラミングを始めたが、子どもの成長は本当に早く、その様子を見てみると、教える側の先生も相当に頑張らなくては大変だと感じた。場合によっては、専門性を有する方に来て教えていただくことも必要もあるかと思うので検討もお願いしたい。</p>

<p>藤井教育委員 学校教育課長 藤井教育委員</p>	<p>使用しているタブレットは、全員に支給しているのか。 学校で一番人数の多いクラスの台数のタブレットを支給している。 プログラミング教育の詳細が分からないが、タブレットで事足りるのか。プログラミングでは、ノートパソコンの方が使いやすい場合も多いと思うがどうか。</p>
<p>教育長 川上教育委員</p>	<p>タブレットについては、キーボードが接続できるものを導入している。 プログラミング教育導入の文部科学省の方向性としては、プログラマーの養成を目指すものではなく、論理的な思考を培うこと、またAIの時代が到来する中にもあっても人間にしかできない創造性を養うことであるので、その点は踏まえて取り組みを進めてほしい。</p>
<p>吉川教育委員</p>	<p>富家小学校と松原小学校が行った遠隔授業は、小規模校の多い高梁市においては大変よい取り組みだと思った。少人数の授業では、個々の考えも深まりにくく限界もある。いろいろな考え方があるということ子どもたちが知る機会が持てるよう、例えば、同じ中学校区の小学校間で遠隔授業を行うなど、取り組みを他にも広げていくよう検討してほしい。</p>
<p>藤井教育委員</p>	<p>小学校での英語教育も始まっているので、できれば、海外の学校との遠隔授業による交流といった取り組みも検討してほしい。日本語を学びたいと考えている海外の学校は多いし、姉妹都市の学校との交流でもよいが、高梁市の子どもたちが英語を学ぼうと思うきっかけづくりになればよいと思っている。</p>
<p>渡邊教育委員 学校教育課長 市長 教育総務課長 渡邊教育委員 教育総務課長 市長</p>	<p>ICTを使う環境はどのようになっているのか。 全校に公衆無線LAN環境の整備を進めている。 整備の進捗状況はどうなっていたか。 今年度中の完了予定で、現在、整備を進めているところである。 セキュリティは問題ないのか。 セキュリティ面の対応も含めて整備している。 今後の計画にあるトイドローンを使ったプログラミング体験については、私が希望したものである。</p>
<p>教育長</p>	<p>プログラミング教育の実施に伴って、さまざまな関連教材が開発されており、それを使うだけで子どもたちのプログラミング能力が格段に向上するような教材も数多く出てきており、このトイドローンもその一つであると思う。川上委員のご意見にあったプログラミング教育の基本は押さえつつ、こうした教材も柔軟に取り入れながら取り組んでいきたい。</p>
<p>渡邊教育委員</p>	<p>川上委員のお話にあった論理的な思考を培うということは、プログラミングを始めた自分の子どもの様子を見ていて、その効果を実感している。プログラミング教育は、子どもたちの思考力や意思伝達能力の向上にもつながることなので、しっかりと丁寧に取り組んでほしい。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>別紙資料により「(4)学区の見直しについて」を説明</p>
<p>市長</p>	<p>学区の見直しについては、現時点で具体的な答えを持っているわけではないが、人口減少が続き、子どもも少なくなっている中、今後検討しなければならない大きな課題であり、問題提起として現状を説明させていただいた。現在の基本学区は市町合併前のままであるので、近くに学校があるにも関わらず、時間をか</p>

藤井教育委員	<p>けて子どもたちが通学しているようなケースもあるが、果たしてそれでよいのか。通学区域のあり方についての答申も10年前のものであり、再度見直す必要があるとも考えている。何かご意見等あればお伺いしたい。</p> <p>4月から特定技能の在留資格が始まるが、これまでの技能実習と違い、家族での移住も可能になる。全国で30万人程度の外国人居住者が増える見込みで、受け入れの対応が必要となる。北海道東川町では、留学生制度を利用し、廃校活用で開設した日本語学校で外国人の受け入れを行い、介護等の人材育成にもつなげ、そのまま町に残ってもらうような取り組みを進めており、約8,000人の町に約200人の外国人が居住している。自治体の中でも外国人材の受け入れに向けた動きが出始めており、高梁市の人口減少を少しでも食い止めるためにも、この機会を利用した取り組みが必要ではないか。</p>
市長	<p>現在、約3万1,000人の高梁市に、約800人の外国人が居住している。大学の留学生が300人強であるので、残りは市内で働いている人たちである。学校の先生たちも、多言語に対応する必要が出てくるかもしれない。</p>
教育長	<p>全ての言語に対応するというのは現実的に困難である。外国人の転校生があれば通訳をお願いしたりしているが、現在はどうか。</p>
学校教育課長	<p>現在は、中国からの転入生に対して、中国語のできる方にクラスサポーターとして週に何日か通ってもらっている学校がある。最初は言葉が通じないことでのトラブルも多いが、1年経てばだいたい日本が理解できている状況である。</p>
市長	<p>これからも国際化はさらに進んでいくし、課題もたくさんある。学区の見直しについては、子どもたちのことを第一に協議していく必要があると考えており、今後の課題として取り上げさせていただいた。</p>
こども未来課長	<p>別紙資料により「(5) 幼稚園、保育園、認定こども園の無償化について」を説明</p>
市長	<p>10月1日から無料化が始まる中で、必ずしも喜んでばかりはいられない方もいるということをご理解いただけたかと思う。高梁市には、現在、病院と社会福祉法人の2カ所に認可外保育施設があるが、認可外保育施設に対する国の考えは、5年間の経過措置後に国の定める保育士配置等の基準を満たしていない施設は無償化の対象から外すというものである。その対応はおかしいと全国市長会では主張しているところではあるが、認可外保育施設の駆け込み設置が相次いでいる実態もあり、既存施設以外は認めないといった抑制策も必要となっている。国は市町村が条例で定めるよう求めており、高梁市でもそのように対応したいと考えている。31年度は、無償化対象の3～5歳児は、ほとんどが就園する見込みである。3歳からは集団生活の中でしっかりと子どもたちを育てていくことでは、無償化による一定の成果があるものと思っている。法律に従って高梁市は進めていくという方向ではあるので、何かご意見等あればお伺いしたい。最後にご紹介した成羽こども園の歌についてでも結構である。</p>
渡邊教育委員	<p>吉川委員には、ご夫妻ですてきな園歌を作ってください感謝する。市内で園歌のある園は多いのか。</p>
こども未来課長	<p>幼稚園は全ての園にある。27年度に有漢こども園と川上こども園が開園した</p>

渡邊教育委員	が、それぞれが前身の幼稚園の園歌を受け継いでいる。成羽子ども園については、前身が保育園ということで、鶴鳴、成美ともに園歌がなかったので、新たに作っていただいたものである。
子ども未来課長	保育園には園歌がないものなのか。
市長	保育園については園歌がない状況である。
	無償化については、まだ詳細が国から示されていないため、現時点ではこれ以上の説明ができないが、負担の増える方に対しても一定の配慮が必要であると思っている。成羽子ども園の入園希望者の状況はどうか。
子ども未来課長	定員が120人で、現在は定員程度の申し込みとなっている。ルール上、定員の2割増まで受け入れ可能となっているので、140人までは対応できる。

4 その他

川上教育委員	多くの市民の方から、7月豪雨で被災したクリーンセンターや斎場について、現在の場所のままでは同じ状況が起きるといふ心配の声を聞いている。
市長	高梁川と成羽川の合流地点については、3月頃から3年計画で川底の堆積土砂の除去を行うと聞いている。今年も7月豪雨と同量の水が出るようなことがあれば、土のうを積んで対応はするが、正直どうにもならない。どちらの施設も、移転しようとするれば環境アセスメント等の手続きが必要となり、地元同意がスムーズに進んだとしても移転には少なくとも5年はかかる。一朝一夕で進まないことはご理解いただきたい。しかし、たちまちの市民生活に支障があるので、現在地での復旧を行ったものである。復興計画に斎場の移転については盛り込んでいるが、どこに移転するかなど具体的な内容はこれからである。

5 閉会

あいさつ（市長）

総合教育会議ということで、教育行政関係の協議をさせていただいたが、新年度予算についても少し説明させていただいてもよかったかもしれない。次回は会議の進め方も工夫させていただきながら、教育委員会での話を踏まえて、市長部局としての考えというものもお示しができればと思っている。

子どもたちは実に多様性があり、いろいろなことに対応する順応性も高く、大人の想像をはるかに超えることを実行して、皆さんもお困りのこともあったり、頼もしいと思うこともあったりするのではないと思う。先日もある会議の場で、7月豪雨で被災はしたけれども、みんなが復興に向けて頑張っている町で育ってきたと、将来、誇りを持って言ってもらえるよう、高梁の子どもたちを育てていきたいと考えているといった発言させていただいた。そのためにも、取り組むべき仕事はたくさんある。「人づくり」の一番の基礎を担うのが教育である。これからも教育委員の皆さんに助けていただきながら、また時には先頭にも立っていただきながら、子どもたちのために取り組みを進めていくので、よろしく願います。